

平成30年度 病害虫発生予察情報

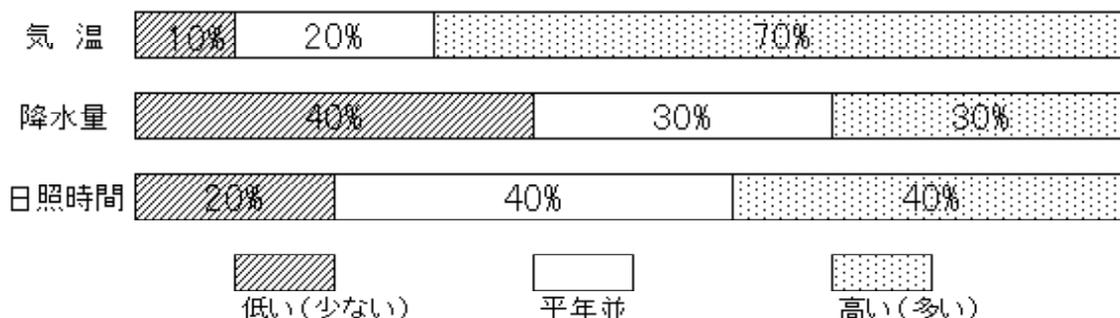
発生予報第6号（8月中旬～9月上旬）

平成30年8月7日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	少ない
		紋枯病	平年並
		白葉枯病	平年並
		ニカメイチュウ	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや多い
		黒斑病	平年並
果樹	ナシ	シンクイムシ類	平年並
		ハダニ類	やや多い
		カメムシ類	やや多い～多い
	カキ	うどんこ病	平年並～やや多い
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや多い～多い

中国地方1か月予報(8月4日～9月3日・広島地方気象台8月2日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) 水稻

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における葉いもちの発生ほ場率は7.1%（平年12.1%）、発病株率は0.51%（平年5.1%）と少なかった。

② 「コシヒカリ」などの出穂期は平年に比べて早い。

③ 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生ほ場率は14.3%（平年17.0%）、発病株率は1.4%（平年2.5%）と平年に比べてやや少なかった。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ニカメイチュウ(第2世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は36頭(平年41.7頭)と平年並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年7.0%)、被害株率は0%(平年0.2%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は123頭(平年206.2頭)と平年並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は5.4頭/50株(平年11.9頭)、発生ほ場率は31.4%(平年60.1%)で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は1頭(平年285.7頭)と平年と比べ少ない。
- ② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.6頭/50株(平年28.2頭)、発生ほ場率は11.8%(平年70.8%)で発生量は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭/50株(平年0.12頭)、発生ほ場率は0%(平年4.1%)と確認されなかったが、県内ほ場において7月第4半旬に発生を認めている。発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(8) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年並みである。
- ② 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.9%(平年10.6%)、被害株率は0.1%(平年1.2%)で発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で3.0頭/20回振り(平年2.8頭)、発生ほ場率52.5%(平年57.9%)で発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメである。

- ② 7月第6半旬までの予察灯への誘殺数は197頭（平成164.2頭）に平年と比べてやや多い。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率12.4%（平成10.9%）であり、発生量は平年並みである。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では寄生葉率39.3%（平成27.3%）でやや多い。

② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

③ クワオオハダニが見られるほ場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。

(4) カメムシ類（平成30年度注意報第1号参照）

予報内容

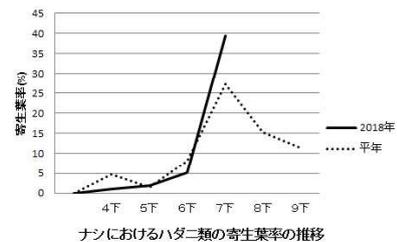
発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

① 予察灯（出雲市）での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は1,413頭（平成1,137.8頭）で平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では一部のほ場で発生が多く、発病葉率7.1%（平成4.6%）であり、発生量は平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 向こう1か月の気象は発生にやや助長的である。

(3) カメムシ類 (平成30年度注意報第1号参照)

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 予察灯 (出雲市) での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は1,413頭 (平年1,137.8頭) で平年に比べてやや多い。
- ② 7月下旬の巡回調査ではカキでの被害果率は0.4% (平年値1.6%) と平年並みである
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

島根県病虫害防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>